



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第108号

平成24年3月23日

(社)栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／馬場章信 ●発行人／石嶋 昇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



栃幼連理事長
石嶋 昇

平成二十三年度は、東日本大震災への対応からのスタートでした。地震による被害は多くの幼稚園に及び、休園せざるを得ない園がでることが大変危惧されました。幸い、一園は仮の園舎でしたが、全園が揃って新学期スタートすることができ、園児たちへの被害は最小限に止められました。

震災後一年を経過しましたが、未だ沢山の傷跡が残っています。放射

能の不安、園児たちの心のケア等、難しい対応の日々が続きますが、東北三県の惨状を思えば下を向いてはいられません。これからも強い気持ちを持って、「子どもたちの最善の利益のために全力を傾注しましょう」。

尚、二十三年度事業の執行につきましては、大震災への対応や統一地方選挙と重なった中でも、会員各位の熱心なご支援・ご協力により、概ね事業も滞り無く執行できましたことを感謝申し上げます。

さて、二十四年度の私学助成予算案は震災の影響もあり、施設整備費に関しては大幅な増額となりました。他方、県の予算案では「とちぎ未来開拓プログラム」進行中という状況下、最善を尽くしたつもりですが、一部の削減阻止に止まり大変申し訳なく、力不足をお詫びいたします。

今後は運動方針の見直し等、二十五・二十六年度に備える必要があり、そのためには組織が一丸となつて事に当たらなければなりません。

新執行部のもと、小異を捨て大同団結し、組織の更なる強化が大切です。今、日本は円高の長期化、財政収支の悪化等、大変厳しい環境下にあります。しかし、日本はこれまで幾度も修羅場を乗り越え発展を遂げてまいりました。企業は今や世界をマーケットに産業構造の変革に取り組んでいます。

世界経済の中心にいる日本、基幹産業以外でもロボットやアニメの分野で世界一の技術力を誇る日本は、その底力を発揮し、必ず立ち直ると確信しています。

栃幼連は日本の明日を信じ、今後幼児教育の資質向上を第一に、大切な幼児教育の充実・発展に全力で取り組んでまいりますので、会員の皆様には、変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



文書学事課長
北山 勉

昨年三月十一日に発生した東日本大震災及び福島第一原発の事故は、

東北・関東各地に未曾有の被害をもたらし、本県でも極めて大きな被害がありました。このため、平成二十三年度は、被災からの復旧・復興に向けて全力で取り組んだ一年となりました。

県内では多くの幼稚園で園舎に被害がありました。県では、幼稚園をはじめとする私立学校の災害復旧事業に対し、国の補助金に県費補助金を上乗せするなど、復興・復旧に努めました。

各幼稚園におかれましては、福島県等からの被災幼児の受入れや放射線に対する保護者の不安への対応、園児の保育環境への配慮等、従来にない大変な一年であったと思います。

一方、国においては、幼保一体化を含む「子ども・子育て新システム」の具体的な制度設計が進められており、幼稚園を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。このような中、これからの幼稚園は、従来にも増して、質の高い教育と地域の子育て支援の役割を期待されています。

県といたしましては、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、明るく生き生きと成長できますよう、幼稚園の皆様とともに、幼児教育の振興や子育て支援の充実に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。



研修会だより

資質向上選抜養成講座Ⅶ

期日 平成二十四年一月二十一日（土）

会場 コンセーレ

参加人数 四十三名

午前の部

演習「小学校につながる幼児期の学びの姿」
「質の高い保育の実現に向けて」

講師 宇都宮大学附属幼稚園
副園長 高柳 恭子氏

午後の部

講義「幼児を対象とした美術鑑賞プログラム」
講師 白鷗大学教授 有馬知江美氏

五日間の日程で行われた資質向上選抜養成講座が一月二十一日（土）に修了しました。

午前の部は講師に高柳先生をお迎えして「学び」をテーマに「演習」が行われました。

参加した先生たちは熱心に耳を傾けていました。特に演習になると目は一段と輝きを増し、「学び」というテーマをじっくりと多方面から考えることができ、意義ある研修であったように思います。

午後の部は、

なかなか勉強する機会のない、刺激ある講義や演習であったた



め、楽しみながら参加していたと思います。さらに、最終日のグループ演習の成果を各幼稚園に発信できたことも大きな収穫だったと思います。

今回この講座に参加された先生方が、今後ますますご活躍されますことをご期待申し上げます。

最後に参加者全員に副理事長小林研介先生から講座Ⅶ修了証が授与されました。

（教研委員 山荷 フサ子）



第三回 保育セオリー講座

期日 平成二十三年十二月十六日（金）

会場 コンセーレ

内容 「幼児の視点から環境を考える」
「子どもにとって意味のある環境」

講師 淑徳大学教授 榎沢良彦氏

メモ

今回は、環境と子どもたちとの繋がりを関わりなどを、大きく分けて四つの観点から考える講演をいただいた。普段の保育に欠かせない一つである環境作りでは、子どもたちの興味関心を引き付けるように、一人ひとりの空間などなるべくどの子にも合うような環境作りを行ってきた。しかし、今回の講演から、保育者の既成の考えから子どもが環境をたくさん生み出し、多様な意味を持つ環境に変えていく。環境作りとは、子どもたち自身が生活の中で体をもって体験し、興味関心をもっていくことが大切になってくるなど、保育者だけでなく子どもたちからも環境を私たちに与えてくれているのだと気付かされた。

今回学んだことを、今後の保育の中で活かしていけるように子どもたち



ちと関わり、生活をしていく中で子どもの個性を引き出していきける、安心する場所など様々な環境づくりをしていきたいと思う。

設置者・園長研修会 明日に向けて幼稚園の振興を考える

1月20日、ホテルニューイタヤを会場に新年恒例の設置者・園長研修会が開催された。116園で126名が参加し、今後の幼稚園振興について研鑽に励んだ。

理事長挨拶

石嶋 昇 理事長

開会后、新年の挨拶の中で、昨年は千年に一度とも言われる東日本大震災による影響により様々な事があったが、皆様のご協力により当連合会の事業を進めて来ることが出来たお礼と、日本の底力を信じてこれからも何事も前向きにポジティブに考えていきたいと述べた。



その後、平成23年度を振り返り、①東日本大震災 ②幼保一体化に向けた動向 ③学校評価 ④教員免許更新制度への対応 ⑤栃木県議会議員選挙への対応 ⑥24年予算（案）について ⑦優秀な人材の確保に向けて ⑧公益法人制度改革への対応 の8項目を課題として今後考えていきたいと述べた。

研修1「幼稚園をめぐる現状と課題」他

講師 栃木県経営管理部 文書学事課 副主幹 小倉 敬子 氏



平成24年度予算については、まず私学助成関係について、一般補助や特別補助等の各予算について説明がされ、次に幼稚園就園奨励費補助金の概要についての説明が行われた。

さらに、福島原発事故による放射線被爆関係についての説明がされた。除染については、県内の比較的放射線量の高い地域を汚染状況重点調査地区として市町単位で進めていくこと。栃木県有識者会議を開催して提言をしていくこと。そして、公聴会などの開催についての説明がされた。

研修2

「24年度 幼児教育センター事業について」

講師 栃木県幼児教育センター センター長 大塚 千枝子 氏



平成24年度センター事業の変更は次の通り。

- 幼・保・小連携研修…運動「幼児期の遊びと体力」
- トップセミナー…「危機管理」
- 保育・教育課程研究セミナー（食育・特別支援教育・学校評価）

- 特別支援教育
- スキルアップセミナー（食育・表現活動・遊びと体力）
- 調査研究委員会「運動（幼児期の遊びと体力）」

「幼稚園における特別支援教育の推進について」

講師 栃木県教育委員会 事務局 特別支援教育室 室長補佐 久保田 幹雄 氏

- 幼稚園・保育所における個別の指導計画等の作成・活用と小学校への引継ぎについての説明が行われた。



研修3「気になる子どもの保育と保護者の支援」

講師 筑波大学大学院 教授 徳田 克己 氏



気になる子どもはたくさんいる。ある公立保育所の年長クラスの子どもの半数は気になる子ども。また、ある公立幼稚園の年長児の6割が就学児検診でひっか

かった。気になる子どもの保育は単に愛情を持って接すれば変わるというような事はなく、保育者が勉強して知識と技術を身につける事が必要である。気になる子どもに対しては、①その子どもの発達支援、つまり保育、②その子どもの保護者に対する支援、③クラスの子どもに対する障害理解指導の3つが必要である。

また、それらの子どもたちに対して、障害を治そうなどと思うのではなく、無理をさせない、しない事を心がける。その他、母親に寄り添い気持ちを受け止めるカウンセラーの役割を保育者は心がける事が必要である。



青年部委員会 県外視察・合宿研修会

一月三十〜三十一日の日程で青年部県外視察・合宿研修会が開催されました。

初日は午後一時から「お茶の水女子大附属幼稚園」の視察を行いました。明治九年に日本初の幼稚園として開園して以来、幼児教育の研究と実践の中心となっている園です。大学正面の門から進むと、煉瓦色をした格式ある園舎が私たちを迎えてくれました。まず、副園長の宮里先生の案内で昭和初期の荘厳な園舎を見学しました。高い天井と古びた木造の内装、その環境を上手に生かして、子どもたちが自由な発想ができるような環境構成、なるほどと思うことばかりでした。次に大きな銀杏の木がある園庭を案内していただきました。ちょうど年長の子どもたちが庭で思い思いの遊びを展開しているところでした。先入観と違って子どもたちはとても野性的だったと思います。水道から水を砂場まで雨樋を使って引っぱり、靴も履かずに夢中で遊ぶ子さえいたくらいです。一通りの見学の後に、これまた歴史的なホールに会場を移して園の方針などを説明い



ただき、私たちの疑問にも丁寧に答えいただきました。参加したメンバーは言葉では言い表せない何かを感じたことでしょう。

次の研修は

場所をお茶の水のホテルに移して行いました。元夜間中学の先生で映画「学校」の主人公のモデルとなった、



松崎運之助先生をお招きして、へ私の「夜間中学」教師体験記「命の光を大きく輝かせるために」と題した講演会を行いました。先生ご自身も満州から引き上げてきて、造船所で働きながら定時制高校を卒業し、上京してから町工場で働きながら夜間大学に通われ、教師となられたそうです。夜間中学では年齢、性別、国籍も様々な人たちが自分の苦しい立場と戦いながらも強く生きる様子を私たちに熱く講演いただきました。世の中の不公平感や弱者の視点に立つて考えるなど、保育に関わる者として絶対に身につけておかなければいけない価値観を同じ教師として熱心にご指導いただきました。メンバーの中には涙を流し先生の話に聞き入る者がありました。それくらい先生の話は現場で感じ取った弱き立場の人（生徒）たちの私たちに対する壮絶な訴えだと思えます。青年部のメンバーはやがて園を背負って立つ人材です。子どもに寄り添い、保護者に寄り添い、時には厳しく、時には一緒に悩み、泣いて笑って：

教師魂を伝授されました。学者ではない大先輩の実体験が聞けて本当に良かったと思います。その後に行われた懇親会に松崎先生も同席いただき、話をさらに掘り下げて懇談することができました。最後にメンバー一人ひとりが自己紹介と本日感想を発表しました。

さて研修二日目です。大田区にある「パール幼稚園」に向かいました。京急蒲田に近い下町の住宅地にある幼稚園です。約束の時間にお伺いすると、玄関のところに私たち全員の名前が書いてあるウエルカムボードが出ていました。園長先生の心遣いに感心しながら中にお邪魔をさせていただきました。始めに自由に園舎園庭や保育を見学させていただきました。先生たちが工夫をして話し合いながら作り上げたプログラムに沿って、歌発表会に向けての練習を行っていました。その後には野村園長先生を囲んでの話し合いです。まず、野村先生の講演をしていただきました。親から引き継いだ幼稚園をいかにして自分の考えに沿った園にしたかの体験談をお聞きました。これはやがて私たち青年部メンバーは直面する課題だと思えます。それだけに皆真剣に野村先生の話に聞き入り、質疑応答では具体的な質問が数多く出ました。経営哲学を学ぶことができた



メンバーも多かったことでしょう。私たちとさほど年が離れていない園長先生の話は、メンバーの良い刺激になったと思います。

この二日間の研修を通して感じたこと、「百聞不如一見、百見不如一考、

百考不如一行」ことわざが示すように体験できたことは私たちの財産となることでしよう。

研修受け入れを快くお引き受けくださった各園の関係者、並びに貴重なお話をいただいた講師の先生、また実行まで万全の準備をいただいた担当地区の先生、そしてこの研修に参加いただいた多くの先生方に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

（青年部委員長 黒川 弘照）



制度改革を見据えた今、 必要だと思うこと

認定こども園対策委員長

中山 昌樹氏

二〇二二年二月現在、「子ども・子育て新システム」に関しては成案取りまとめ、そして法案の提出が準備されています。今後この法案が、また政権がどうなるのか、情勢は非常に流動的ではありますが、現行の「認定こども園制度」が向かっている方向は、基本的に変わらないでしょう。

まず、この「認定こども園制度」が何を指すのか、なるべく正確な裏付けをもとに考えたいと思います。その裏付けとしては、OECDの取組みが最適だと考えます。それは、加盟諸国は等しく、家族の数と規模の縮小により、保育・教育、社会保障、雇用等を含む包括的な制度改革を必要としているからです。少子化への対策は、いずれの国でも緊急の課題です。また、数が少なくなった子どもの健全育成（質の高い保育・教育による）が、いずれの国でも重要な課題です。

私は二〇二二年一月、『Starting Strong III』に佐野市の取り組みを紹介したことが縁となり、オスロ（ノルウェー）で開かれたOECD国際会議に出席してきました。OECDは、PIISA（国際学力到達度テスト）の実施だけでなく、乳幼児期の子どもの国の投資がもっとも有効であるという提言をしてきました。例えばそこで紹介された『ヘックマン調査』では、「幼児教育をしつかり受けた子どもは、受けなかった子より高校中退せ

ず卒業する比率や年収が高く、犯罪による逮捕率は低い」（読売新聞二〇二二年、七）と述べられています。もちろん、保育・教育は子どもと家族の幸せのためにあると思っていますが、国家としての視点で言えば、次世代を担う子どもが健全に育ち、就労し納税することは大変有意義なことになります。子どもが健全に育たなかった場合の再教育・更生等の予算を考えれば、乳幼児期の子どもの投資はその数分の一ですむという試算もあります。私が出席したオスロの会議では、「保育・教育の質」向上がこのような投資をさらに有効かつ確かなものにするという主張から、各国の取り組みが紹介されました。お隣の韓国でも、このような潮流から、幼保一体化を前提とした幼児教育の無償化が今年三月から段階的に実施されます（「ヌリ・プロジェクト」）。白梅学園大学の汐見稔幸先生が、残念ながら日本ではこの問題への取り組みが「周回遅れ」になっていると述べていますが、オスロの会議に出てみて、私はこのことを肌で感じました。

「認定こども園制度」、そして「新システム」の目指す方向は、子どもと家族の幸せを中心に、それを支える国家の行く末も見据えています。そして、その理念の最も重要なエッセンスは、「すべての子どもの最善の利益」だと考えます。上述のPIISAで常に上位に位置するフィンランドでは、親の就労や経済格差に関わりなく、すべての子どもがどの施設でも等しく質の高い保育・教育が受けられるという状況にあります。要するに徹底した底上げが行われ、結果的にPIISAの平均点が押し上げられ、学力世界一になっていると考えられます。日本でも同様に地下資

源が乏しく人が資源となるので、現在の格差社会（相対的貧困率十四%以上の是正を考えつつ、どの家庭の子とも等しく質の高い保育・教育が受けられるシステムを求めたい）ところです。次に、このような制度改革を想定し、私たち現場が今、何をすべきかを考えたいと思います。

第一に思うのは、何のための認定こども園（あるいは、総合こども園：仮称）なのかという理念を明確に意識し、このことを職員、保護者、地域に発信することだと考えます。私は認定こども園に関する別団体の事務局長を務めていることから、ある県の依頼である幼稚園の保護者への「説得」を試みたことがあります。それは、その園の認定こども園化に反対している保護者への「説得」でした。私はそこで、認定こども園制度について、そしてその現場について、なるべく具体的な説明をしました。ここで最も難しいと感じたことは、偏った（間違った）イメージに基づいて幼稚園と保育園を対立させる発想です。このような発想は、園の職員の中でも問題になると聞きます（例えば全日私幼連で行ったアンケート二〇二一年）。「すべての子どもの最善の利益」という理念を、錦の御旗にすることが重要ですが、この戦略は一朝一夕では成り立ちません。時間をかけて、職員、保護者、地域にこの理念を伝えていく努力が必要だと思っています。

第二に、市町との協働的関係を築くことだと考えます。「新システム」に移行してもいなくても、これからはますます市や町との関係作りが大切になっていきます。地方分権の流れも変わらなれないと思われからです。この場合、いきなり幼保連携型認定こども園や認

可保育園を前提に話を進めようとする、市や町は思わぬ反発を見せるかもしれない。市町の保育行政に関する「勉強会」を開催したり、学童保育のことからアプローチするなど、街作りの観点、あるいはパブリックな視点を強調することがポイントになると考えます。

第三には、乳児保育を中心にした「養護」の部分の研究をしておく必要があります。乳幼児の発達や生活の理解は特に重要です。また、調理室を中心にした「食育」も大切で、この時期の「遊びを中心にした生活」の土台を作ることにあります。さらに、乳児保育に関するところでは経験のある職員の存在が必須となるでしょう。施設長の設置に関連して、現場経験者の確保をしておく必要があると思います。当然のことですが、質の高い乳児保育を行っているところの視察・見学も必要だと考えます。

その他、子どもの用品やユニフォームそして給食等を、幼保の区別なく用意する工夫も必要となるでしょう。また保護者会も、在籍が幼か保に関わらず一つの組織で運営したいところです。さらに、職員の処遇、例えば退職金財団への加入の問題等については、事前の研究が必要となります。

これらの問題の一部には、「新システム」に移行すれば解決することも含まれます。そしてこのことと施設整備に関する補助の在り方等を比較して、経営者としていつ自園の舵を切るのかということになるでしょう。その際、冒頭に述べた、この制度改革が何のために進められているのかという、そもそも論を、ぶれることのない羅針盤として大切にしたいと思います。

平成24年度私立幼稚園関係予算案

(単位：千円)

事業名	平成24年度 予算額(案)	平成23年度 予算額	概要
1 幼稚園運営費補助金	5,788,399	5,739,311	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児一人当たり 178,500円(H23 178,500円) うち満3歳児分 337,544千円(H23 312,375千円)
2 幼稚園教材費等補助金	22,287	24,438	個人及び宗教法人が設置する幼稚園の教材費等経費に対する助成 園児一人当たり 39,100円(H23 39,100円) うち満3歳児分 1,173千円(H23 1,643千円)
3 地域子育て推進事業費補助金	323,380	335,350	
(1)子育てランド事業	39,440	51,410	幼稚園が実施する①～⑤の事業に対する助成 ① 子ども遊び場確保事業 ア 園地・園舎開放事業 イ 放課後児童クラブ事業 ② 未就園児親子教室事業 ③ 幼児教育に関する各種講座開催事業 ④ 地域の子育て支援に関する情報提供・紹介事業 ⑤ その他市町が定める子育て支援事業のうち、知事が適当と認めるもの A 上記事業のうち2事業以上実施 1園当たり 160千円(市町160千円以上の補助が条件) B 上記事業のうち3事業以上実施 1園当たり 250千円(市町250千円以上の補助が条件)
(2)わんぱく保育推進事業	283,940	283,940	幼稚園が実施する①～④の預かり保育事業に対する助成 ①預かり保育(通常分) 1園当たり 800千円、1,200千円、1,600千円 ②特定預かり保育(4時間超) 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ③長期休業日預かり保育 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ④休業日預かり保育 1園当たり 300千円、480千円、660千円
4 幼稚園第二子等保育料減免事業費補助金	34,098	42,704	幼稚園に同時に二人以上在園する場合に保護者が負担する保育料に対する助成 第一子に対して、第二子は1/2に、第三子以降は1/10に軽減
5 栃木県私立幼稚園教職員退職金財団補助金	151,288	151,368	掛金について、教職員標準給与額の27/1000を補助
6 特別支援教育費補助金	344,176	311,248	特別支援を要する園児が就園する幼稚園に対し、その経費の一部を助成 対象園児一人当たり 学法二人以上 784千円(H23 784千円) 上記以外 392千円(H23 392千円)
7 私立学校教職員共済補助金(幼稚園分)	52,227	52,029	長期掛金について、教職員標準給与額の8/1000を補助(対象者2,466人)
8 幼稚園連合会補助金	3,000	6,650	栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成
9 私立学校被災児童生徒授業料等減免補助金(幼稚園分)	4,446	10,144 (補正)	被災園児に係る保育料等減免事業に対する助成 ・幼稚園 4,446千円 45人(H23 60人)
10 幼稚園耐震化事業費	106,000	—	認定こども園への移行を予定している私立幼稚園の耐震化事業に対する補助 ・補助率1/2(安心子ども基金活用事業)
合 計	6,829,301	6,673,242	

平成24年度予算案の内容について

委員会として、毎年予算の増額を要求していますが、「とちぎ未来改革プログラム」の名の下で増額を実現することはできませんでした。

栃幼連といたしましては、引き続き研究や運動を重ねていく所存ですが、会員の皆様方におかれましても保護者や地域の方々のご理解とご支援をいただきながら、更なるご協力をお願い申し上げます。

振興委員長 磯 行雄



今年度の主な事業が終わりまし
た。

各研修や調査研究等、幼児教育セ
ンター事業へのご協力ありがとうございました。

新規採用幼稚園教諭研修を 振り返って

昨年十二月二十六日に全日程が終
了しました。幼児理解・コミュニケ
ーション能力の向上・日案の書き方
等、多岐にわたるスキルの向上を図
り、心身ともに大きくなったように
思います。今後のご活躍を期待して
います。

幼稚園教職十年経験者研修が 修了しました

平成二十三年年度幼稚園教職十年経
験者研修の修了者二十四名をご紹介
いたします。

本研修は、総合教育センター等に
おける六日間の園外研修と十日間の
園内研修となります。センターの研
修では、課題研究の協議を中心に、
組織マネジメント、小学校教諭との
合同協議等、中堅教員として力を存
分に発揮していただきました。

最終日には、幼児教育センター長
より修了証を授与しました。



一年間お疲れ様でした。
栃木県の幼児教育を推進するミドルリ
ーダーとして活躍ください。

作新学院幼稚園	星 淳子
さくらが丘幼稚園	福島 潤子
中鶴田幼稚園	小林 寿恵
すずめ幼稚園	加藤 裕美
岡本幼稚園	落合 久恵
やしお幼稚園	佐藤利津子
やしお幼稚園	福田 麻美
東光寺幼稚園	大友 里奈
矢場川幼稚園	山本 弘美
足利めぐみ幼稚園	仁木 文絵
足利さくら幼稚園	河内 瞳
育成館幼稚園	秋山いづみ
認定こども園あかみ幼稚園	猪越 恵美
おおみや幼稚園	足助しのぶ
国谷幼稚園	毛塚友加里
たちばな幼稚園	斎藤 典子
やすづか幼稚園	宇賀神晴香
バンビ幼稚園	鈴木 千春
間々田幼稚園	川口 恵美
今市中央幼稚園	千田 美幸
認定こども園すみれ幼稚園	黒尾 幸子
那須みふじ幼稚園	中村真紀子
すぎのこ幼稚園	塩澤 由佳
認定こども園西那須野幼稚園	大島 京子

(敬称略)

栃木県教育研究発表大会

「幼・保・小連携部会」

栃木県総合教育センターでは、毎
年一月後半に栃木県教育研究発表大
会を開催しています。



今年度の
「幼・保・小連
携」部会では、
当センターで実
施している相互
職場体験研修に
参加していただ
いた幼稚園・小
学校の先生と管
理職によるシン
ポジウムを行いました。

テーマ

幼児期から児童期への円滑な接続
相互職場体験研修から見てきたこと

パネリスト

ゆたか幼稚園長 鈴木 二朗 先生

教諭 玉造 三紀 先生

宇都宮市立田原西小学校

教諭 山田 弘子 先生

幼児教育センター長 大塚 千枝子

(前宇都宮市立田原西小学校長)

小学校で二日間の体験研修をした
玉造先生からは、「今まで、五歳児
には就学を意識して指導をしてきた
が、それ以前の四歳児・三歳児の育
ちが大切だと改めて気付いた。連携
に園全体で取り組んでいきたい。」
という心強いメッセージをいただき
ました。

幼児教育担当指導主事研修会で 幼稚園を訪問しました

県内の各市町教育委員会には、幼
児教育担当の指導主事がいます。公
立幼稚園のある市町では直接、訪問
等をさせていただいていますが、そ
れ以外は、幼稚園の保育を参観する
機会がありません。今回の研
修会(二月六日)では、宇都宮市の
陽南幼稚園にご協力いただき、保育
を参観させていただきました。



研究協議では、遊びの中で様々な
ことを学んでいる子どもの様子や幼
児期ならではの教師の援助を目にし
た指導主事から、「一年生の指導に
生かせる要素が
たくさんあっ
た。」「給食の様
子やトイレ等の
設備面の違いも
見ることができ
てよかった。」
等の意見が出さ
れました。

家庭教育支援のための 実践事例集

昨年度発行のリーフレット
「家庭教育のすすめ」を活用し
た実践事例集(冊子)を作成し
ています。四月に各園に送付す
る予定です。子育て支援の取組
等に、ぜひご活用ください。

(文責 高木 恵美)

学事だより

県文書学事課

各種提出書類について

幼稚園運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は平成二十四年五月七日（月）です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに平成二十三年年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いいたします。

幼稚園教材費等補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は平成二十四年四月二十日（金）です。

幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに平成二十四年四月四日（水）です。

平成二十三年年度決算書及び平成二十四年度予算書の提出について

平成二十三年年度決算書及び平成二十四年度予算書の提出期限は、平成二十四年六月二十九日（金）です。決算書（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園あてに別途メールでお送りします。予算書も決算書標準様式と同様に作成してください。

資産総額の変更登記済届

平成二十三年年度決算に伴う資産総額の変更登記は、平成二十四年五月末日までに行い、六月二十九日（金）までに登記済届を提出してください。

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

平成二十四年度学校基礎調査ヒアリング（園児数確認）の実施について

平成二十四年度学校基礎調査ヒアリング（園児数確認）については、平成二十四年五月七日（月）から十日（木）及び十六日（水）の五日間を予定しています。

詳細については、別途通知いたしますが、担当者の出席についてご協力をお願いします。

平成二十四年度

六月までの事業予定

4月5日	新規採用幼稚園教諭研修（集合研修）
5月16日	栃幼連 通常総会（23年度決算総会）
5月21日	※10年経験者研修（共通研修）
5月26日	※保育を語る会
5月28日	※合同研修（幼・保・小）
5月31日	※合同研修（幼・保・小）
6月1日	※合同研修（幼・保・小）
6月5日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月7日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月8日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月11日	保育テクニカル講座
6月14日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月18日	設置者・園長研修会
6月18日	※幼保小教職員相互職場体験研修事前説明会
6月19日	※パワーアップセミナー
6月22日	新採研 公開保育（宇大附属幼稚園）
6月25日	※保育・教育課程研究セミナー
6月27日	新採研 公開保育（宇大附属幼稚園）
	※は幼児教育センター事業

総会予告

栃幼連通常総会

平成二十四年度
（二十三年年度決算総会）
平成二十四年五月十六日（水）
会場：コンセーレ

編集後記

先日ある小嘶をきいた。お月さまとお日さまと雷さまが旅館に泊った時のこと。翌朝、雷さまが起きるとすでに他の二人はもう旅館からいなくなっていた。雷は、「月日の経つのは早いなあ。」と言ったという。（お月さまとお日さまの出発は早い。）
十年ひと昔というけれども、十年ほどまえにも広報委員をさせていただいたことがあった。当時は瀧田守先生が広報委員長をされており、委員会の集まりも多く、そのたびに原稿用紙をにらみながら苦労して校正をした記憶がある。

現在は、ホームページ委員会も旗揚げし、パソコンが必需品となり、毎年新しい発想や知識をもった委員で構成され、昔の人間にとっては乗り遅れまいと必死である。

一年一年を振り返ると、牛歩の歩みのように思えるが、この十年の間には、毎年多くの人たちの知恵や努力がこめられ、形となってきたように思える。

平成二十三年度もあとわずかとなり広報委員としての任期も終えようとしている。これまで本紙の発行に当たり公私共にお忙しい中、編集にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

最後に、次期の委員さんのご活躍と、今後の日本がもっと元気を取り戻すようお祈りいたします。

（広報委員 古水義浩）